

2019年1月7日

## 年頭所感 (2019年1月)

新年明けましておめでとうございます。昨年末はこの冬一番の寒波により日本海側を中心に各地で降雪に見舞われましたが、お正月三が日は比較的穏やかな晴れの日恵まれました。皆さんそれぞれに年末・年始のお休みを過ごされたことと思います。毎年のこととは言え、大晦日に除夜の鐘を聴き、初詣に参りますと心改まり、新年に向けて希望が湧いてきます。新年の朝礼であり、年頭の所感を申し述べます。

昨年の日本経済は、米国を中心に世界経済が堅調に推移したこともあり、ゆるやかな景気拡大が続きました。2012年12月に始まった今回の景気拡大は、本年1月には74ヶ月となり、これまでの2002年1月から2008年2月までの73ヶ月を抜き、戦後最長記録を更新するとみられています。但し、拡大の基調はゆるやかで実感の乏しい景気拡大となっています。昨年後半には米中貿易摩擦の深刻化、中国景気の減速、原油価格の乱高下など先行きの不透明感が増幅されてきました。国内では7～9月に西日本豪雨、北海道胆振東部地震など大きな自然災害に多々見舞われました。この影響で個人消費が伸び悩み、昨年7～9月期の国内総生産（GDP）速報値は、実質で年率▲1.2%となり、2期ぶりのマイナス成長となりました。ドル・円為替相場は、年初111円後半でスタートし、最高値104円56銭、最安値114円55銭、年末110円前半と年間上下値幅は10円以内の安定した為替相場となり、企業の業績好調の一因ともなりました。日経平均は、好調な企業業績を背景に、一昨年末の22,765円から、10月初めに27年ぶりの高値となる最高値24,448円を付けました。その後世界経済の先行き不透明感、米国FRBの利上げ継続懸念などにより米国株を中心に世界的に株式相場が変調来たす中で、年末終値20,015円となり、年間で2,750円（12%）安と7年ぶりに下落しました。昨年の金融市場は、株式、債券、商品などほとんどの相場が軒並み下落しました。2008年の金融危機発生から10年が経ち、米欧中央銀行の金融緩和策の正常化への転換とともに緩和マネーが支えた適温相場は終わったといえます。

今年の内外の経済は、米中の貿易戦争の激化、米中景気の減速、トランプ政権の混乱、米国FRBの利上げ、英国のEU離脱、欧州のポピュリズム・ナショナリズムの拡大、中東情勢の不安定化、日米貿易協議など世界経済の先行きへの懸念材料が山積しています。日本は今年4月30日に平成天皇が退位され5月1日に皇太子が新天皇に即位されて元号が変わります。6月には大阪で主要20カ国・地域（G20）会議が開かれます。9月にはラグビーのワールドカップが開催されます。来年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。世界の目が日本に集まる年となります。米国の同盟国であり、中国と深い関係にある日本が、米中対立を緩和させるよう世界各国の議論を主導してほしいもので

す。欧州主要国、アジア諸国とも連携を深め、多国間協調を支える自由貿易のネットワークをより強固なものとする努力も必要です。その為にも官民ともに世界第三位の経済大国としての名に恥じない発信と行動を内外に示してほしいと願っています。

年明けの世界の金融市場は、景気の減速、下振れを不安視して乱高下する波乱の幕開けとなりました。当社も、激しく変動する経済環境の中で、しっかりと自分の足場を固め、どんな荒波にも耐えていける企業体質・体力を築いていかなければなりません。ものづくりの世界に IT、AI、ロボットがますます入り込んでくる時代となっています。この動きは、当社と多くの取引先にも大きな影響を与えています。さまざまな変化に鋭いアンテナをめぐらし、取引先との関係をより深くし、当社として何ができるかを見つめ直してください。取引先のニーズにあった新しい取り組みを提案していきましょう。そのために、自らの意欲を高め、提案を実現できる能力を磨いてほしいと願います。

今年もみんなが与えられた職責、持ち分を十分に自覚し、各自が果たすべき仕事をしっかり着実にやり遂げれば、必ずよい結果が得られるものと信じています。

みんなが健康で、みんなで努力の成果を喜びあえる会社を目指していきます。

今年一年が皆さんと会社にとってより良い年となるように祈念して、年頭の所感とします。

以上